

「新岡山県環境基本計画(エコビジョン2020)の見直し素案」 に対する県民意見等の募集結果について

平成28年11月21日から12月20日までの間、「新岡山県環境基本計画（エコビジョン2020）の見直し素案」について、おかやま県民提案制度（パブリック・コメント）によりご意見を募集したところ、次の3件が寄せられました。

これらのご意見等に対する県の考え方を掲載しておりますのでご覧ください。
貴重なご意見ありがとうございました。

＜寄せられたご意見等と県の考え方＞

	ご意見等	県の考え方
1	<p>【自然とのふれあいの推進】 ●自然環境学習等の推進</p> <p>県民全体を対象とした環境学習の充実を図るため、岡山県自然保護センター等県の施設に加え、自治体が運営している施設や民間関連施設との協力や連携が不可欠ではないか。</p>	<p>推進目標の「参加と協働による快適な環境の保全」の中で、実践的な環境学習の機会の提供に取り組むこととしており、その中で民間の施設を含めた多様な主体との連携や、協働による出前講座を実施することとしています。</p> <p>なお、自然保護センターにおいても、開設しているポータルサイト「おかやま自然ずかん」において県内関係施設の紹介やリンク、イベント情報の提供を行うなどしており、今後ともこうしたツールの活用等により県民へのPRに努めていくこととしております。</p>
2	<p>【自然とのふれあいの推進】 ●自然環境学習等の推進</p> <p>重点プログラム「自然環境学習等の推進」の中に、「小中学校等の教育現場における自然保護センターの利用推進」といった文言を入れることを提案する。</p>	<p>小中学校等の授業における環境教育・学習は、指導要領に基づき各学校並びに当該市町村教委においてそれぞれの地域の特色を生かしつつ判断されるべきものでありますが、現在でも近隣の小中学校には見学・遠足等で団体利用いただいております。今後もより多くの利用につながるよう、引き続き、小中学校への働きかけや公立学校の教職員に対する環境研修での周知などのPRに努め、学校による自然保護センター利用の促進を図って参ります。</p>

	ご意見等	県の考え方
3	<p>【野生生物の保護】</p> <p>■野生鳥獣の保護管理</p> <p>●特定鳥獣保護管理対策の推進</p> <p>現在、農村ではイノシシ、サルなど野生鳥獣が増え、保護及び管理に係るさまざまな取組が行われているが成果が現われておらず、農林水産業の被害が深刻化している。人間と動物のどちらが大切かを考慮して、計画を見直してほしい。</p>	<p>生息数の著しい増加や、生息域の拡大により、農林水産業等に被害を及ぼしている野生鳥獣については、積極的な管理を行うこととしております。</p> <p>特に、イノシシ、シカについては、昨年度策定した第二種特定鳥獣管理計画に基づき生息数の半減を目指して、捕獲を強化するとともに、狩猟者の確保・育成に取り組んでいるところです。また、サルについては防護と捕獲の両面から被害防止対策を行っているところであり、今後はさらに詳細な生息状況を把握した上で、効果的な対策を行うこととしております。なお、記述は分かりやすくするために修正します。</p>